ISSN 0285-0117
筑波大学附属図書館報　2001年6月
THE UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY BULLETIN
つくばねvol.27no.1

● 目次

1　大学図書館のはじめといま
3　国語科成立10年前の教科書から
5　本学教官寄贈著書紹介
7　私の一冊
9　平成12年度附属図書館統計
10　Ask Us　としょかんミニガイド
12　シリーズ・電子図書館の現状（1）
13　掲示板
14　編集室だより

大学図書館のはじめといま

山内　芳文

ヨーロッパの大学における図書館の成立は，大学が団体として確立する過程とは無関係ではなかったと思われる。大学が出現するのは，12世紀から13世紀といわれているが，その大学が分野毎に独自の建物をもち，また図書館も附属させる今日のすがたの原型をみせ始めるのは，おおざっぱないいかたになるが，やはり15世紀以降のことだ。教師の同業組合（ギルド）に対するローマ法王や神聖ローマ帝国皇帝の勅許によってその成立が推定される12世紀以降の大学（ウニフェルシタス）は、15世紀には，国家や領邦の君主によって直接設立される大学にほとんどとってかわられ，ウニフェルシタスというもともとギルド以上の意味をもたない名称のみがかろうじてその起源を偲ばせることとなった。ヨーロッパの古い大学都市，たとえばハイデルベルクの狭い旧市内には，今でも，大学の施設，ことに文科系のゼミナールが散在しているが，大学図書館はその一角に壮大な建物を構えている。これは，明らかに19世紀の後半の建造であるが，それでも，その配置はそれ以前の伝統を明確に変更しているわけではない。ラシュドールの『中世大学史』では，15世紀は各地の大学における図書館の建設の時代であり，衰えたスコラ主義の討論にくたびれた孤独な学生は図書館のなかに独りでより豊かな知的刺激を見出すことができた，といわれている（横尾壮英訳『大学の

起源』1968)。

長いあいだ，つまり大学が出現した12，3世紀から15世紀にかけて，大学には図書館が欠けていた，というのが図書館史の通説だ。ジョンソンの『西洋図書館史』（小野泰博訳『西欧の図書館史』1974）によれば，大学の教師たちは自分たちの文庫をもっていて，その蔵書をお気に入りの学生に貸し与えていたといわれるし，あるいは大学町では書籍商がかなりの書物をもっていて，教師や学生の需要に応えていた，ともいわれている。12世紀のなかばになってはじめて記録に登場するボローニャの場合は，驚くべきことに学生たちの同郷毎の団体（ナチオ）などが図書館まがいのものを保有していたようだ。15世紀に独立した建物をもつようになる大学図書館は，明らかに，このような歴史を引継ぎ，画期的な発展を遂げた。そのおおきなインパクトは，ひとつにはすでに述べたような設置主体の変更，そして忘れてはならないのは，15世紀のなかばの活版印刷術の発明とその急速な普及によって大量の書物が世に出ることになったという事実だ。修道院の図書室の態様を引継いだ初期の大学図書館では，その蔵書の多くが寄付によって成り立っていたことを示している。国家や領邦の君主が設立する大学では，そのかなり早い時期にそれに必要な施設として図書館を附属させている。うえに述べたハイデルベルク，さらにはプラハなどの14世紀に領邦君主によって創設の大学，さらにはそれ以降に創設された同様の大学には，その創立のあとまもなく，ささやかながら大学図書館ができている。しかしながら，カレッジ・システムが支配的であったパリの場合は，その起源を13世紀なかごろのソルボンヌによる蔵書の寄付に求めることができはするものの，総合図書館の完成をみたのは19世紀になってからのことだ。また15世紀に幾多の曲折を経て設立されたオクスフォードの図書館についても，その起源を14世紀のはじめにひとりの司教が寄贈した文庫に遡ることはできるものの，大学における総合図書館の重要性についての認識はなかなか育たなかった，といわれている。

国家がその機関として大学を必要としたとき，そこには大学そのものの図書館が当然のように附属していた。最も初期の大学図書館は，おそらく中世の修道院の図書室と同じような規模であったと思われるが，その閉鎖性とは著しい対照をみせていた。さきほど引き合いにだしたジョンソンは，それを「生きて働く図書館」だったと特徴づけている。大学図書館の成立は，修道院の奥深く，図書室に隣接した写本室で写字生として働きながら神学に没頭する修道士たち，その姿はウンベルト・エーコの『薔薇の名前』ですでにおなじみだが，その修道院を主たる担い手としてきた文化を一挙に開放したのだ。16世紀に設立されたオランダのライデン大学の図書館の様子を示す銅版画が残されているが，前ページに掲げておいたように，その書棚に記されている学問分野は中世以来の自由学芸のテリトリをおおきく越えている。神学の棚のとなりに歴史や文学の棚があったり，哲学の棚のとなりに数学や医学の棚があったりして，さらにはローマ法と教会法の羊皮紙の冊子体文献（コーデックス）が混在する配置は，この大学図書館が，教師たちの限られた専門の文庫を後目に，都市文明の担い手を嘱望されている学生たちに教養をひろく提供しようとしていたことを示している。大学図書館こそ，ジョンソンもいうように，近代図書館のさきがけであり，ことばを換えれば，そのような学生たちを通して，新しい時代を先取りする知の発信基地となっていた。

このように，大学図書館の歴史をほんのすこしばかり見渡しただけでも，私たちは，そこに現代の大学図書館が抱えている基本的な課題がすでに芽生えていることを確認することができる。その課題は，明らかに，大学図書館がこれまで果たしてきた積極的な役割を転換させる方向で，みずからを際立たせている。15世紀に登場した大学図書館は，現代にいたるまで，教養の求めるその総合

性において，その基本的性格をほぼ維持してきているからだ。本学附属図書館は，いぜんとして残存していた個人文庫の性格を払拭し，そのような総合性を保証した画期的な方式（集中管理と全面開架）を採用しているが，これこそ，15世紀以来の大学図書館が目指してきたものの制度的な到達点なのであった。

しかしながら，その基本的な性格こそが，現在おおきな試練に立たされているように思えてならない。図書館は，なにか急いで調べものをするところであり，それはあらかじめ検索した文献の必要な箇所を複写する場所となってしまっていて，ゆっくりと本を探して，ゆったりと本を読むというところではなくなってきている。それどころか，研究のプライオリティの国際競争にさらされている研究者にとっては，研究室から直接アクセスできるオンライン・ジャーナルや文献情報データ・ベースだけが図書館との唯一のかかわりになってきているような状況も生じてきている。また，なにか調べものをするところといったが，それさえもあやしくなってきている。閲覧席に堆く書物を積んで，熱心にノートをとっている学生の姿は，いまではきわめて稀になった。それに，個人文庫に慣れ親しんできた教員の図書館に対する意識が書物の購入意欲の減退というかたちであらわれてきている気配もある。極度の専門主義や業績主義の慌ただしさが図書館の総合性を脅かしているのではないかという認識は，明らかに被害妄想なのだろう。しかしながら，書棚のあいだを逍遙し，気になる本をふと手にするときの愉悦などは，はるか遠い昔の想い出，ひょっとすると自分で勝手に描いてしまっただけの15世紀の大学図書館の幻影なのかもしれない。判断を一歩誤れば，図書館どころか，大学そのものの存立にかかわる重大な影響を及ぼすことになりかねないグーテンベルク以来のＩＴ革命と「構造改革」の大状況は，巨大大学の片隅で紙魚（しみ）のような生活をおくってきただけの隠者に，なんの因果か，歴史の重みを越えて，想像を絶した緊張感を強いてくれている。

（やまうち・よしふみ　附属図書館長）

国語科成立10年前の教科書から

甲斐雄一郎

教育研究科国語教育コースで私が隔年に開講している「国語科教育史」は，原資料に基づいた参加者相互の討論を通じて，我が国の国語科教育の目標設定，教材選択，教育実践にかかわる諸問題について歴史的な位相から構造的に理解することを目指している。そしてそれは本学が東京教育大学から引き継いだ，宮木文庫をはじめとする膨大な教科書コレクションの存在があってはじめて可能となる時間なのである。ここではこの授業の筋道の一部を紹介することによって，国語科教育史を考えるうえで本学所蔵の教科書群が持つ意味の一端を述べたいと思う。

義務教育における国語科は，1900年の「小学校令」においてそれまでの読書・作文・習字科を統合して成立した。この時の国語科の目標は「国語ハ普通ノ言語，日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ智徳ヲ啓発スルヲ以テ要旨トス」と規定されていた。1998年に告示された学習指導要領では国語科を「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」教科として定めている。国語科の目標を，言語による理解力・表現力の養成としてとらえるならば，成立以降今日に至るまで一世紀の間，一貫していたということになる。ただし「要旨」の後半部において「啓発」することが求められている「智徳」のとらえ方によって，国語教育史を連続しているとみるか，断絶しているとみるか，その評価はわかれるであろう。

この時「智徳」の実質を決定していたのは，教科書に掲載すべき教材に関わる「其ノ材料ハ修身，歴史，地理，理科其ノ他生活ニ必須ナル事項ニ取リ趣味ニ富ムモノタルヘシ」という規定であった。読むことの指導については「修身，歴史，地理，理科其ノ他生活ニ必須ナル事項」を教材として網羅した教科書を用いて「智徳」を啓発することも成立時の国語科の目標であったのである。

目標設定における二元論ともいうべきこうした規定は1886年の小学校令のもとで定められた「小学校ノ学科及其程度」における読書科までさかのぼることができる。そしてこの構造は1904年の国定教科書使用開始以降も継続し，1933年使用開始の第四期国定教科書の編集時にいたるまで規定している。国語科は成立以前から言語の教育としての目標のみならず，教科書教材として選択された題材に固有の目標もまた教科の目標として担わされてきたのである。

ここで素朴な疑問として生じるのが読書科，そして国語科における教材の独自性ともいうべきことである。成立当時の教育課程において，尋常小学校には地理，歴史，理科は位置づけられていなかったものの，高等小学校にはそれらの教科はそれぞれ位置づけられていた。したがって読書科や国語科の教科書として掲載すべき地理，歴史，理科等に関わる教材と，当該教科の内容とをどのような関係として考えたらよいのか，そして読書科，あるいは国語科の教材としての独自性はどこに見いだしうるのか，という問題である。

この問題がもっとも切実だったのは，当時の検定教科書の編集者たちであった。1886年以降，教科書の検定制度が開始されたのだが，それぞれの教科書を編集するに際しては，当然このことについての一定の方針を打ち出し，しかも文部省の検定に合格する必要があったからである。本学にはこの後３年の間に刊行されたものに限っても，文部省の編集・発行によるものを含めて十余種の高等小学校読書科用の教科書が所蔵されている。それらはいずれも独自の視点から読書科の教科書編集に取り組んでいる。

文部省の『高等小学読本』（1888-89年）でみるならば，緒言において読書教授の目的を「諸般ノ学術，工芸ノ端緒ヲ開クニ在ル」とし「修身，地理，歴史，理科，及ビ農工商ノ常職ニ要用ナル事項等ヲ，其主意ノ難易ニ従ヒ，交互ニ錯出」したとしている。当然のこととはいえ，1886年の規定

※「潮汐」に関する理科教材（小野太郎1887『小学理科書』巻之三）と読書教材（文部省『高等小学読本』巻五）

を踏まえた編集であることの強調である。西村正三郎・池永厚共編による『高等小学読本』（1887年，普及舎）も同様の方針を明らかにしている。

この二つは歴史的教材については，ともに古代から近代までの教材を掲載しているという点で共通している。歴史科の内容を網羅しているのである。しかし地理的教材については，文部省の教科書が日本・外国の主要都市に関する詳細な教材を数多く掲載しているのに対し，西村・池永の教科書では北海道，小笠原島，琉球，そして東京というように，当時の日本の中心地と周縁地域についての教材を掲載しているにすぎない。理科的教材については，理科に関わる教育内容と比べるならば当時の理科は「人生ニ最モ緊切ノ関係アルモノ」としての動植鉱物等に関する博物的な知識，また「日常児童ノ目撃シ得ル所ノモノ」としての自然現象や日用器具の作用などについて取り上げる教科として規定されていた。文部省編集のものは，理科の内容として例示された素材をほぼそのまま網羅して解説している（前頁写真参照）。それに対し西村・池永の編集による教科書は博物的な知識にくわえて物理学，化学一般の知識を授けることを目的として編集されており，教科としての理科の内容よりもさらに高度なものになっている。

一方，のちに東京高等師範学校校長，さらには東京文理科大学学長をつとめた三宅米吉の編集による『高等日本読本』（1888年，金港堂，新保磐次との共編）では「本書第五巻以上ハ専文学ニ傾キテ理科経済等ノ事実ヲ知ラシムルコトヲセズ」というように，かならずしも文部省の規定にはしたがわず，「文学」を教えるための教科書編集であることを宣言している。そのために理科的教材や地理的教材はきわめて少なく，歴史的教材についても，文学史上の物語に取材したものを掲載することによって編集方針を貫徹しようとしているように思われる。

これらはそれぞれ地理，歴史，理科等の教科の内容を検討したうえでの読書科という教科に対する編集者たちの教科観の表明であるといえるだろう。そしてその内容は当該教科の進展，教育課程の変化にともなって変化せざるをえないものであった。したがって私たちが本学の明治期教科書コレクションで手にとることができるこの前後以降の検定教科書群による多種多様な読書科，国語科の教材構成のあり方は，その時々におけるこの教科の固有の存在意義の考え方についてのそれぞれの提案であったとみることができる。そしてそれら数々の提案は一世紀余を隔てた私たちにも，これらからの教育課程と国語科の考え方についてさまざまな刺激を与えてくれるのである。

（かい・ゆういちろう　教育学系助教授）

本学教官寄贈著書紹介

平成12年12月～平成13年4月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介いたします。

（敬称略，寄贈者五十音順，〔　〕内は配架場所と配架番号です。）

秋山学（文芸・言語学系）

・教父と古典解釈：予型論の射程. 創文社, 2001〔中央 132.1-A38〕

池田裕（歴史・人類学系）

・死海文書Q&A. ミルトス,2000〔中央 193.02-I32〕

伊藤益（哲学・思想学系）

・旅の思想:日本思想における「存在」の問題. 北樹出版, 2001〔中央 121-I89〕

岡部克己（心身障害学系）

・Educational rehabilitation and nursing for aphasics in Japan : an interdisciplinary Model / Toshiko Okabe. University of Tsukuba and Tokyo Metropolitan University of Health Sciences, 2000〔中央, 体芸, 医学 496.9-O37〕

角井博（芸術学系）

・墨跡の鑑賞基礎知識 / 寺山旦中共著. 至文堂, 2000〔体芸 728-Te67〕

河野惟隆（社会科学系）

・法人税法別表四の新解釈. 税務経理協会, 2001〔中央 345.3-Ko76〕

佐伯聰夫（体育科学系）

・スポーツイベントの展開と地域社会形成：ウインブルドン・テニスからブンデスリーガ・サッカーまで. 不昧堂出版, 2000〔体芸 780. 13-Sa14〕

塩尻和子（哲学・思想学系）

・イスラームの倫理：アブドゥル・ジャッバール研究. 未來社, 2001〔中央 167.1-Sh72〕

・聖戦の歴史：十字軍遠征から湾岸戦争まで / カレン・アームストロング著, 池田美佐子共訳. 柏書房, 2001〔中央 209-Sh72〕

志賀和人（農林学系）

・21世紀の地域森林管理. 全国林業改良普及協会, 2001（林業改良普及叢書：137）〔中央 651-Sh27〕

副田義也（社会科学系）

・死の社会学. 岩波書店, 2001〔中央 361.04-So21〕

高木英明（社会工学系）

・Performance and Qos of next generation networking / Kunio Goto ... [et. al.] Springer, 2001〔中央 007.6-G72〕

田島裕（社会科学系）

・イギリス憲法典：1998年人権法. 信山社, 2001〔中央, 大塚 323.33-Ta26〕

谷川彰英（教育学系）

・マンガ：教師に見えなかった世界. 白水社, 2000〔中央 726.1-Ta88〕

長尾英幸（農林学系）

・改訂・日本の絶滅のおそれのある野性生物：レッドデータブック / 環境庁自然保護局野生生物課 9. 自然環境研究センター, 2000〔中央 462.1-Ka56〕

中川八洋（歴史・人類学系）

・大東亜戦争と「開戦責任」：近衛文麿と山本五十六. 弓立社, 2000〔中央 210.75-N32〕

中村伸夫（芸術学系）

・中国近代の書人たち. 二玄社, 2000〔体芸 728. 22-N37〕

野口鐵郎（名誉教授）

・訳注明史刑法志. 風響社, 2001〔中央 322.22-N93〕

黄順姫（社会科学系）

・国際会議20世紀におけるナショナリズム, スポーツ, 身体文化. 筑波大学社会科学系, 2001〔中央本学, 中央, 体芸, 医学 311.3-Ko11〕

三澤章吾（社会医学系）

・変死体・殺人捜査：法医学事件ファイル. 日本文芸社, 2001〔医学 498.94-Mi51〕

水野建雄（哲学・思想学系）

・ディルタイと現代：歴史的理性批判の射程 / 西村皓, 牧野英二, 舟山俊明編. 法政大学出版局, 2001〔中央 134.9-D74〕

・ディルタイの歴史認識とヘーゲル. 南窓社, 1998〔中央, 体芸 201.1-D74〕

メイサー, ダリル（生物科学系）

・アジアと生命倫理 / 藤木典生共編. ユウバイオス倫理研究会, 1999〔中央 490.15-F59〕

・日本における高校での生命倫理教育. ユウバイオス倫理研究会, 2000〔中央 375.314-Ma14〕

・ヒト・ゲノム研究と社会：第2回国際生命倫理福井セミナー / 藤木典生共編. ユウバイオス倫理研究会, 1992〔中央 490.15-F59〕

・ヒト・ゲノムの保全と科学の責務：1995年科学の責務協会日本支部・ユネスコ国際生命倫理委員会ジョイント・セミナー / 岡本道雄, 藤木典生共編. ユウバイオス倫理研究会, 1996（ミュース・ジャパン：創刊号）〔中央 490.5-O42〕

・Bioethics in Asia : the proceedings of the UNESCO Asian Bioethics Conference (ABC'97) and the WHO-assisted satellite symposium on medical genetics services, 3-8 Nov. 1997 in Kobe / Fukui, Japan : 3rd MURS Japan international symposium, 2nd congress of the Asian Association of Bioethics, 6th international bioethics seminar in Fukui / editors, Norio Fujiki. Eubios Ethics Institute, 1998〔中央 490.15-Ma14〕

・Bioethics in high schools in Australia, Japan & New Zealand. Eubios Ethics Institute, 1996〔中央 375.314-Ma14〕
・Bioethics in India : proceedings of the International Bioethics Workshop in Madras : bioethical management of biogeoresources, 16-19 Jan. 1997, Universityof Madras / editors, Jayapaul Azariah, Hilda Azariah. Eubios Ethics Institute, 1998〔中央 490.15-A99〕
・Bioethics is love of life : an alternative textbook. Eubios Ethics Institute, 1998〔中央 490.15-Ma14〕
・Ethical challenges as we approach the end of the human genome project. Eubios Ethics Institute, 2000〔中央 490.15-Ma14〕

八木春生（芸術学系）

・中国南北朝時代における小文化センターの研究：漢中・安康地区調査報告. 筑波大学芸術学系八木研究室, 1998〔中央本学,中央 702.22-Y15〕

湯沢質幸（文芸・言語学系）

・古代日本人と外国語：源氏・道真・円仁・通訳・渤海・大学寮. 勉誠出版, 2001（遊学叢書：14）〔中央810.23-Y99〕

吉田武男（教育学系）

・道徳教育とその指導法. NSK出版, 2001（NSK教育ブックス）〔中央 371.6-Y86〕
・発想の転換を促すシュタイナーの教育名言100選. 学事出版, 2001〔中央 371.5-St3〕

私の一冊

伊藤 益

「旅の思想」

—日本思想における「存在」の問題—

伊藤益著（北樹出版）

〔中央121-I89〕

この道や　行く人なしに　秋の暮　　（芭蕉）

茫漠と広がる原野に一筋の道が通っている。旅人の視界には，後を追う者の姿もなければ，前方を歩む者の後姿もない。旅人は，どこへつながるともしれぬ果てのない細道を，ただひとり悄然と歩きつづける。物理的には限局されながらも，精神の行き着く地点を特定できない私たちの人生は，こうした旅に似ている。

旅に在る者は，いつも，自身の内部で何かがゆらいでいることを自覚せざるをえない。旅は，薄い膜のように原郷を蔽っていたやすらぎの感覚を，何処ともなく霧散させてしまうからだ。では，何がゆらぐのか。旅人の心底に不安をもたらすものの正体は。本書はこの問いへの応答を試みる。

問いは，すでに，多くの先達によって立てられている。例えば，西行，一遍，芭蕉。彼らは，その漂泊の「生」を通して，何らかの応答をさえ果たしたはずだ。そうした問いかけと応答の跡を追いながら，「旅に在ること」の意義を，「旅」と「在ること」（存在）とに即して闡明することを，本書はみずからの目的としている。

得られた結論は，およそ次のようなものだ。

旅は，「在ること」の根底を激しく動揺させる。しかし，その動揺を抑止するためには，さらに旅を続けざるをえない。続行される，ゆらぎの旅の

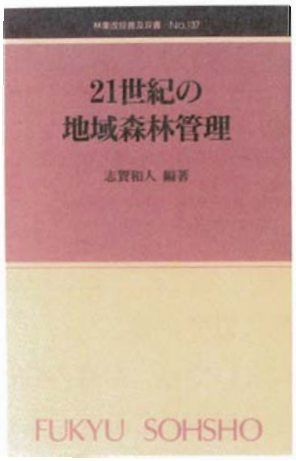
なかで，旅人は，「在ること」を「ふたりで在ること」として回復してゆく。「ふたり」とは，「我」と「我」にとって代置不可能な「汝」とをさす。つまり，「在ること」のゆらぎとしての旅は，「我」と「汝」との緊密な関係が確定されるときに終息する。だから，もしそこにおいて「我」と「汝」とのつながりが固められないなら，旅は果てしのないものとなる。あの白鳥となって何処へともなく飛翔したヤマトタケルの旅のように。

（いとう・すすむ　哲学・思想学系助教授）

志賀和人
「21世紀の地域森林管理」

志賀和人編著（全国林業改良普及協会）

〔中央651-Sh27〕



今年の２月に国連森林フォーラム(UNFF)の組織会合が開催され，わが国では昨年12月に林政改革大綱と林政改革プログラムが決定され，森林・林業基本法案が第151回国会に提出されている。国際的にも国内的にも「持続可能な森林管理」が森林政策のキーワードとなっている。

しかし，その一方で日本の私有林の25%は村外居住者や会社などが所有し，在村所有者でさえも所有山林の境界がわからないといった状況が拡大している。国際的合意となった「持続可能な森林管理」を日本の風土や地域に即してどのように考えるべきか。日本の国土の７割を占める森林は，だれがどのように管理しているのか。各地域の具体的事例を交えて，そこに表れた森林管理制度の問題点と課題を次のような構成で検討している。

序章「地域の森林を管理するのは誰か」では，日本と同様に小規模私有林の多いフィンランドとの比較で森林認証問題への対応に表れた両国の森林管理概念と制度的枠組みの相違点を検討した。第１章「不在村者所有林の管理問題と対策」と第２章「施業受託による森林管理の可能性」では，不在村者所有林に典型的にみられる日本の森林管理問題と林業による森林管理の限界を分析し，第３章「森林の多面的利用と地域管理」では，都道府県および市町村施策による都市近郊林や人工林の地域管理の事例を紹介し，分権的な森林管理制度構築への可能性を示した。第４章「各地の山林を訪ねて」では，編集部の取材による12地域の具体的事例から山に対する地域の想いが語られている。終章「21世紀の日本型森林管理への展望」では，スイスの林政改革と欧州諸国の全欧州森林認証スキームへの取り組みを踏まえて，21世紀の日本における森林管理をめぐる課題を示し，地域が明治以来の「官林経営主義」林政の呪縛から自律する道筋を展望した。

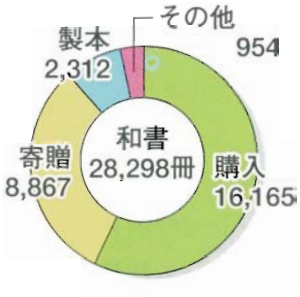
（しが・かずひと　農林学系助教授）

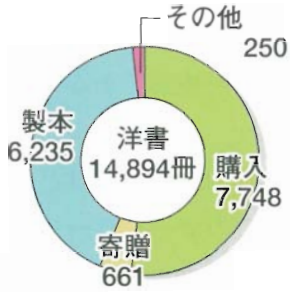
平成12年度附属図書館統計

詳細な統計は，WWWページでも提供しておりますのでご覧ください。
URL http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/outline/statistics-2000.pdf

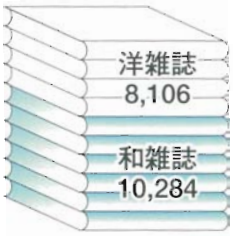
蔵書数　2,117,140冊

年間受入冊数　43,192冊

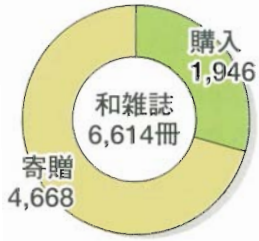


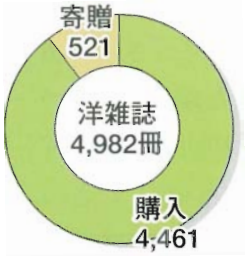


所蔵雑誌タイトル数　18,390種



継続雑誌タイトル数　11,596種

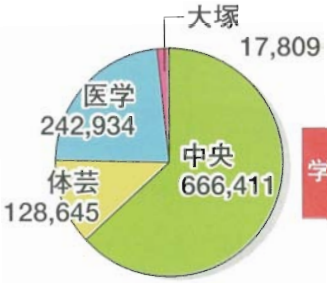




オンラインジャーナルタイトル数　1,354種

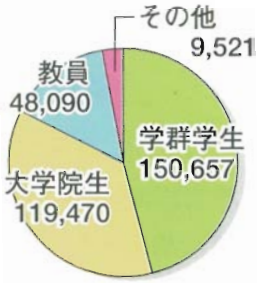
電子図書館学内生産資料登録数(件)	研究紀要	学位論文	研究成果報告書	学事報告	シラバス
	50	886	165	33	106

入館者総数　1,055,799人



学外者	閲覧	36,910
	見学	5,354

貸出冊数　327,738冊



学内サービス対象者数　20,416人

利用者タイプ	教　員	職　員	学群学生	大学院生
人　数	2,980	1,834	9,881	5,721

ASK US　としょかんミニガイド

「判例MASTER」の使い方について

今回は，判例を調べる際に便利な判例MASTERの利用についてご紹介します。

判例MASTERは，1947年以降に公刊された日本国内での全分野の判例に関する書誌情報及び判示事項，また全文（最高裁等の重要判例についてのみ）が検索できるデータベースです。

Q：判例MASTERはどこで利用できますか？

A：このデータベースはネットワークで提供されているので，各図書館内に設置されている情報検索端末と，学内ＬＡＮに接続された端末で利用可能です。

ＷＷＷブラウザで，筑波大学電子図書館→学術情報データベース→判例MASTERの順にアクセスしてください。(図１）図書館以外の場所に設置された端末でこのデータベースを使用する場合は，初回にＤＢセットアップをする必要があるので，ご注意ください。

図１　判例MASTER

Q：どのように検索するのですか？

A：検索画面は判決年月日･法令名・キーワードの３つで構成され（図２），これらを使った複合検索と，別画面を起動して判決年月日を指定する日付検索ができます。

入力された文字は自動的に半角カナ表示され，これをリターンキーで漢字変換する形式をとっています。

複合検索画面では判決年月日・法令名・キーワードについて個別の検索実行も可能です。

なお判決年月日は該当する期間の全分野についての検索をするので，必要に応じて，法令名・キーワード検索欄にも検索条件を入力しましょう。

法令検索は法令名と条数を入力して行います。この場合，法令名は正式名称または略称を用います。法令を項類号まで指定する場合は，項類号をキーワード欄に入力して検索します。

キーワード検索は指定したキーワードを含む判例を検索する機能です。

縦列のボックスに入力したキーワードはＡＮＤ検索され,横列のボックスだとＯＲ検索されます。また，各ボックスの前をチェックすることで，そのキーワードを含まないものを検索することもできます。

例えば,「オートバイ」もしくは「自転車」について「一方通行路」で発生した「交通事故」の判例を検索する場合，(図２）のような入力になります。

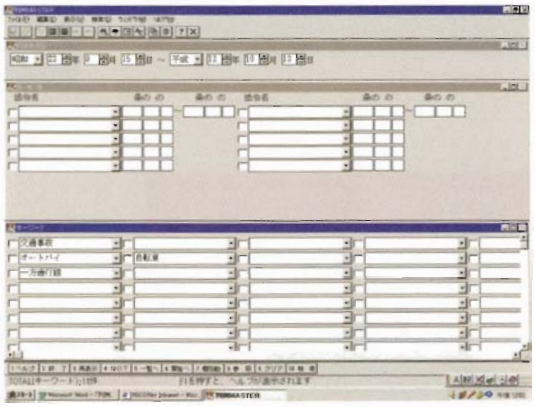


図２　キーワード入力例

日付検索機能を使う場合はツールバーの検索ボタンで「日付検索」を選択して画面を開き，知りたい判決について判決年月日と裁判所名を入力し，検索実行します。

検索語が特定出来ないときは分かる範囲で入力してから画面下部のファンクションキーにある参

照ボタンをクリックすると，その語を含む法令名やキーワードの候補が示されます。

各条件を入力し，検索を実行します。(図３)

図３　検索結果

「一覧へ」「要旨へ」をクリックすると，それぞれ詳細画面を見ることができます。(図4，5)

また検索結果を紙出力する場合は，これらの画面で必要な判例を選び，ツールバーの印刷ボタンを使います。

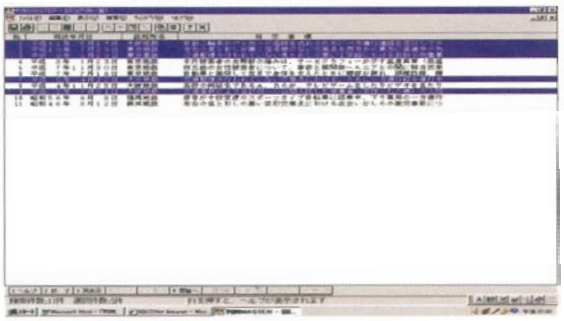


図４　該当判例一覧

図５ 判例要旨

検索結果に対して更に条件を付け加えるときは，検索結果画面上の再検索ボタンを選択することで，先に入力した条件を残したままの検索画面を使うことが可能になります。

全く新たな検索を行う場合は，検索画面に戻り，検索条件をクリアして次の検索を行います。ツールバーから検索画面を選択しても，新たな検索画面が出現しますが，検索画面を複数立ち上げると，メモリ不足の原因になりますので，ご注意ください。

また，一度使った検索条件は最も新しい検索を先頭に，最大７回が履歴として残されるので，必要に応じてこれを選択し，検索することが出来ます。検索履歴はツールバーの検索ボタンから「検索条件の履歴」を開いて使用します。

これらはデータベースを終了させた後も保存されるため，後で再検索する際には便利ですが，図書館等共用の端末で利用した場合は全終了する前に履歴をクリアしてください。

Ｑ：判例MASTERの他に法学関係文献についてのツールはありますか？

Ａ：筑波大学附属図書館には「法律判例文献情報」と「判例体系」があります。

「法律判例文献情報」は，国内刊行の図書や法律判例関係の雑誌，研究紀要，新聞等の中から，法律に関する文献や判例情報を収録したCD－ROMで，収録範囲は1982年以降，文献数約31万，判例数約３万件です。利用場所は，中央図書館２Ｆ情報検索コーナーの専用端末と大塚図書館の２ヶ所になります。

「判例体系」は加除式冊子体とCD－ROM形態のものとがあり，加除式冊子体は中央図書館２Ｆと大塚図書館に配架されています。CD－ROMは，判例総数15万件，要旨28万件，本文13万件の情報を収めており，中央図書館２F情報検索コーナーに専用端末があります。是非ご利用ください。

＊お問い合わせ先

DBセットアップについて：電子情報係(内線2470)

検索方法について：各館レファレンスデスク

シリーズ・電子図書館の現状（1）

書誌情報データベース（OPAC）

1 はじめに

昭和48(1973)年の筑波大学開学以来，附属図書館の蔵書は毎年数万冊ずつ増え続けています。旧東京教育大学から引きついだ蔵書を含め，現在は212万冊になりました。当館では，ネットワークをとおした情報提供サービスとして，これらの蔵書目録を電子化したOPACに，電子的コンテンツを本格的に提供するためのシステムを加え，電子図書館システムを平成10(1998)年に導入しました。図書館のホームページ(http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/)がその電子図書館の入り口になっています。当館の電子図書館システムでは伝統的な図書館のOPACと，仮想的な図書館の「蔵書」であるコンテンツを一体のものとして構成し，情報の形態に係わらず目的の情報に到達しやすいように工夫してあります。

現在，学位論文などの学内生産資料1,240点，貴重書などの学内収集資料2,816点，電子ジャーナル2,725点のコンテンツがあります。このようにコンテンツが充実してくるにしたがって，電子図書館へのアクセス件数が増加しました。平成12年度のアクセス件数は年間50万回，１日平均1,300回でした。

電子図書館サービスをさらに充実させるために，平成14年１月から新電子図書館システムに移行する準備をしています。新電子図書館システムでは，個人向けサービスの拡充や動画を利用しやすくするなど，様々な改善を計画しています。これを機に，本誌では４回に分け，「シリーズ・電子図書館の現状」を掲載することにしました。シリーズの第１回は書誌情報データベースについて紹介します。第２回は「コンテンツ」，第３回は「高精細画像」，第４回は「新電子図書館システム」を紹介する予定です。

2 書誌情報データベース（OPAC）

電子図書館システムの利用者はOPACの書誌情報データベースから，リンクをたどってコンテンツへと導かれる仕組みになっています。書誌情報データベースは目的の情報を入手するための第一段階の役割を担っています。書誌情報データベースには

書誌

- 書名　萬葉集註釋 (マンヨウシュウ　チュウシャク)
- 著者名　仙覚
- 出版　[製作地不明] : [製作者不明], [16--]
- 刊年　16--
- 形態　5冊 ; 26.9×18.2cm
- 別書名　仙覚抄
  萬葉集抄
  万葉集注釋
- 注記　補訓本につき記述対象資料毎に書誌作成
  10巻5冊
  写本
  書名は巻頭より、小口書きはそれぞれ「萬葉集註釋(仙覚抄)1-5」
  第1冊原に「仙覚抄」、第5冊原に「萬葉集抄　九」
  各冊いずれも外題なし
  全[387]丁 (1: [107]丁, 2: [77]丁, 3: [64]丁, 4: [82]丁, 5: [56]丁)
  各面9行、25字前後
  本文は片仮名交じり文、朱引・朱点あり
  第5冊巻10末奥書「文永六年孟夏二月於武蔵國比企郡北方麻師宇郷政所注之了　権律師仙覚　在判」「建治元年十二月二日以作者仙覚律師自筆本教人書写訖 /同日一校畢　玄清　在判」「此十帖以律師玄覚之本如系圖令相伝/又重考分書入之更不可有殘本難　為/一詞能々可慎 /爾時眼暗不可説々々/ 十佛判」
  巻末識語は次のとおり、巻3・5末「正意一考」(朱書)、巻10末「寛永十三年丙子夏6月正意一考」(朱書)
  「正意一考」の巻末識語は、蓬左文庫蔵本(106-8)にもあり
  巻末識語の「正意」は「堀杏庵」(1585-1643)(『国書人名事典』岩波書店、1998による)
  「正意」の校正は巻10識語によれば寛永13(1636)年夏6月であり、本写本はそれ以前の成立となる
  『筑波大学和漢貴重図書目録』194参照
- 標題言語 日本語 (jpn)
- 本文言語 日本語 (jpn)
- 補助情報 仙覚(1203-)(センカク)
- 分類　CAL:ル212
- 書号　NCID:BA45155896

OPACデータ例：仙覚本萬葉集註釈

書名，著者名，分類番号，その他の情報が記録されています。書誌データは，和書は「日本目録規則」，洋書は「英米目録規則」に基づいた形式で記録しています。

3 OPACのなりたち

当館は，図書館業務の電算化に早くから取り組み，TULIPS図書館システムを当館独自のトータルシステムとして開発しました。TULIPSの目録システムはLCMARC（米国議会図書館機械可読目録）の書誌データをダウンロードできる本格的なものでした。昭和59(1984)年までの数年間で50万冊の書誌情報データを作成し，初期入力を終了しました。この時点では，旧東京教育大学旧分類図書56万冊の入力はその後の課題として残りました。

昭和61(1986)年には，当館を第56回国際図書館連盟（IFLA)東京大会の見学ツアーが訪れました。館内案内のほか目録システムを始めとするデモを行い，先進的な図書館システムとして注目されました。当館ではその後もTULIPS図書館システムの改善に努め，インターネットが一般に普及し始めた平成5(1993)年にはtelnet版OPAC，平成8(1996)年にはWeb版OPACを公開しました。前記の電子図書館システムは，このTULIPS図書館システムを発展させたものです。

4 遡及入力

「貴重な図書がたくさん揃っている旧東京教育大学図書館の蔵書をOPACで検索できるようにしてほしい」という利用者からの要望に応え，懸案になっていた56万冊の旧東京教育大学特殊分類図書を対象として，新たに書誌情報データを作成する作業（遡及入力）を平成8(1996)年から開始しました。まず始めに中央図書館本館1階，中2階に配架してある25万冊に着手し，5年間でほぼ入力作業を終えあとわずかを残すだけとなりました。

続いて，平成10年度から和古書，漢籍などの和装本15万冊の入力を開始しました。和古書や漢籍の書誌データ作成には，書誌学の伝統に則った細かな配慮が必要とされます。関係の先生方，大学院生の方々のご協力を得ることができ，困難な作業ですが，順調に入力を進めています。和装本の中には，旧東京教育大学旧蔵書ならではの貴重な資料が多く，全国の研究者から多くの問い合わせが寄せられています。

このように蓄積されてきた書誌情報データベースは，現在では全蔵書の87%をカバーするようになりました。この入力率は同じ規模の蔵書を持つ大学図書館としては屈指といわれています。

今後も書誌情報データベースの充実・改善に努めていきますので，学習・研究に活用してください。

掲示板

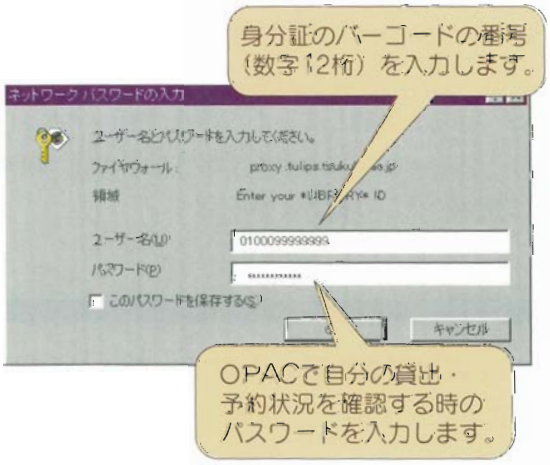
利用者用端末のWebブラウザの認証開始について

セキュリティ保持のため，2001年9月から，利用者用端末(※)で動くWebブラウザを使用する際，ログイン名とパスワードによる認証が必要になります。具体的には，Webサーバに対して情報を発信しようとすると最初の一回だけログイン名とパスワードが要求されるようになります。

ご不便をおかけしますが，ご理解とご協力をお願いします。

詳しくは，
http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/user-terminal.html
のページをご覧ください。

(※)図書館内の教育用計算機端末は既に認証システムが導入されています。



中央図書館本館５階ほかの照明工事終了

平成10年度から毎年行っている本館照明設備改修工事について平成12年度末は本館５階と２階北側の書架上照明，１階新聞コーナーおよび目録コーナーの照明を改修しました。５階と２階の書架上照明は書架と書架の間に配置し直すとともに増設し，１階の照明は照明器具を交換しました。明るさが大変アップし閲覧環境が改善されました。また，書架上照明は省エネを考慮しブロックごとに人を感知すると一定時間点灯するようになっています。

土･日曜日及び祝日開館における貸出サービス(試行)開始

５月19日(土)から貸出サービスを試行で開始しました。このサービスは利用者からの要望が強く，実施に向けて検討を続けてきたものです。休日貸出は，操作性とセキュリティを考慮し現行貸出システムに手を加えた休日用システムで一般図書の貸出（医学基本図書を含む）と更新および返却に限定し運用しています。また，貸出中や延滞中図書の問い合わせなど利用状況照会はカウンターではできませんので，利用者自身で附属図書館ホームページから調べてください。

実施図書館および受付時間は以下のとおりです。

○実施図書館　中央図書館
　　体育・芸術図書館(日曜日を除く)
　　医学図書館
○一般図書の貸出・更新受付時間　14時―17時
○返却の受付時間　13時―18時

なお，貸出システムに障害が発生した場合は，対応できる職員がいないため貸出ができなくなる場合がありますのでご了承ください。

編集室だより

21世紀を迎えた今年の正月，15年前に中央図書館で夜間アルバイトをしていた学生さんからポストカプセル郵便をいただいた。そこには当時の図書館の事情がよく書かれている。「コンピュータの導入により，(中略) 貸出時間が夜７時まで (中略) 延長されたのです。」「４階には東京教育大からの移送図書で未整理の分がおさめられております。」等々。

当時のコンピュータは数年前に新しいものへ世代交代された。貸出時間は夜８時までとなり，奇しくも今年度から土日の貸出しも可能になった。旧東京教育大の資料は，今回の『シリーズ・電子図書館の現状』に記載されたとおりほぼ遍及入力作業を終えた。少しずつではあるが，当時よりは使いやすい図書館へと変化をとげていると評価していただければ幸いである。ちなみに，これを送ってくれた学生さんは現在は研究者として関西の大学に勤めている。

雨あがりの夕方編集を終えて帰宅すると，官舎の横に筑波山にいる有名な(？)大蛙がじっとしていた。本で調べてみると，どうやらヒキガエルである。こいつはなんと20年ぐらい生きると書いてあった。15年前のキミはちっぽけなおたまじゃくしだったかな。

(K.T.)

本年度の館報『つくばね』編集委員は，次の８名です。

主　査：情報サービス課長　堀内眞也
副主査：情報システム課課長補佐　三浦正克
情報管理課：野口龍，竹谷喜美江
情報サービス課：氣谷陽子，船山桂子
　　後宮優子
情報システム課：太澤類里佐

筑波大学附属図書館報　第27巻　第１号(通巻103号) 2001年６月29日　筑波大学図書館部発行
〒305-8577　茨城県つくば市天王台１－１－１　電話0298-53-2347
URL http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/